

「自然体験活動全体指導者・補助指導者養成研修会」 (文部科学省委託事業)

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家
 【後援】 九州各県・政令指定都市教育委員会
 【期間】 平成23年 8月22日(月)～24日(水) 2泊3日
 【参加者】 教職員 2名, 社会教育関係者11名, 一般21名,
 学生 8名 計42名
 【性別】 男性29名, 女性13名
 【県別内訳】 熊本県23名, 福岡県 5名, 長崎県 5名,
 宮崎県 3名, 鹿児島県 2名, 山口県 1名,
 沖縄県 1名, 大分県 1名, 大阪府 1名



【講師】 熊本大学教育学部教授 吉田 道雄 氏
 熊本市キャンプ協会会長 伊藤 一成 氏
 日本赤十字社熊本県支部指導員 村田 裕子 氏
 熊本県ネイチャーゲーム協会理事 西田 秀美 氏
 財団法人阿蘇グリーンストック環境教育担当 桐原 章 氏
 国立阿蘇青少年交流の家 企画指導専門職

1 趣 旨

「小学校の1週間の体験活動」において、教育効果の高い自然体験活動・生活体験活動の機会を提供するために、プログラム企画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成する。

2 目 標

- (1) 子どもたちに自然体験活動が必要であることを理解する。
- (2) 自然体験活動の基礎的な知識・技術を身につける。
- (3) プログラム作成の基本的な視点を理解する。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

					9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
8/22 (月)					受付 開会 行事	自然体験 活動の技術	教育課程と 体験活動の 関連性①	昼食	学校教育における 体験活動の意義		安全管理① (救急救命法)		教育課程と 体験活動の 関連性②	夕食・休憩		体験活動の指導法 (草原活用した指導法)		入浴	就寝 準備	就寝
	6:00	7:00	8:00		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
8/23 (火)	起床・ 洗面	集い	朝食・ 準備	移動	安全管理② (登山中の安全管理)			昼食	体験活動の指導法 (ネイチャーゲーム)		自然体験活動の技術 (ロープワーク・野外炊飯)			入浴		プログラムの 企画・立案・作成		情報 交換会	就寝 準備	就寝
	6:00	7:00	8:00		9:00	10:00	11:00	12:00												
8/24 (水)	起床・ 洗面	集い	朝食・ 身支度	準備	プログラムの 企画・立案・ 作成	プログラムの 発表・評価		閉会 行事												

(2) 目標達成のための工夫

① 指導体制の充実

ア 大学や関係機関等からの専門的な講師の招聘

体験活動の意義や救急救命法等、それぞれの講義・演習等において、その分野の専門家に講師を依頼し、体験活動の必要性や基礎的な知識や技能を学ぶことができるようにした。

イ 企画指導専門職等職員による指導

本講習にあたっては企画指導専門職3名が分担し「体験活動の指導法」と「自然体験活動の技術」、「安全管理」各2時間の指導・助言を行った。それぞれの専門職が研修で学んだことや、実際に事業を行って感じたことや経験したことを伝えるようにした。



救急救命法の様子

② プログラム内容の充実

ア 「何のために」という視点を重視したプログラム

ただ単に楽しいだけのアクティビティの設定やプログラム作成に終始することなく、子どもたちが到達すべき目標はいったい何か、ということを考えた上で、アクティビティの設定やプログラム作成にあたるように指導した。また、それを「体験活動の指導方法」や「プログラムの企画立案」の振り返りの視点にした。

イ フィールドワークやワークショップ等を取り入れたプログラム

参加者が意欲的に活動に取り組み、また講習会終了後、いろいろな機会学んだことを実践できるよう、具体的な体験的な活動を提供した。また、いろいろな立場での意見や情報の交換ができるよう、教職員や社会教育関係者、一般、学生等、様々な職種を混合したグループ編成をした。



プログラムの企画・立案



ネイチャーゲームの様子

★自然体験活動の技能：阿蘇の特産物を使った野外炊飯

(メニュー：高菜飯・だご汁・阿蘇でとれた野菜でのサラダ)

★体験活動の指導法：阿蘇の大草原を生かした活動の実践例の紹介

(阿蘇草原再生への取組)

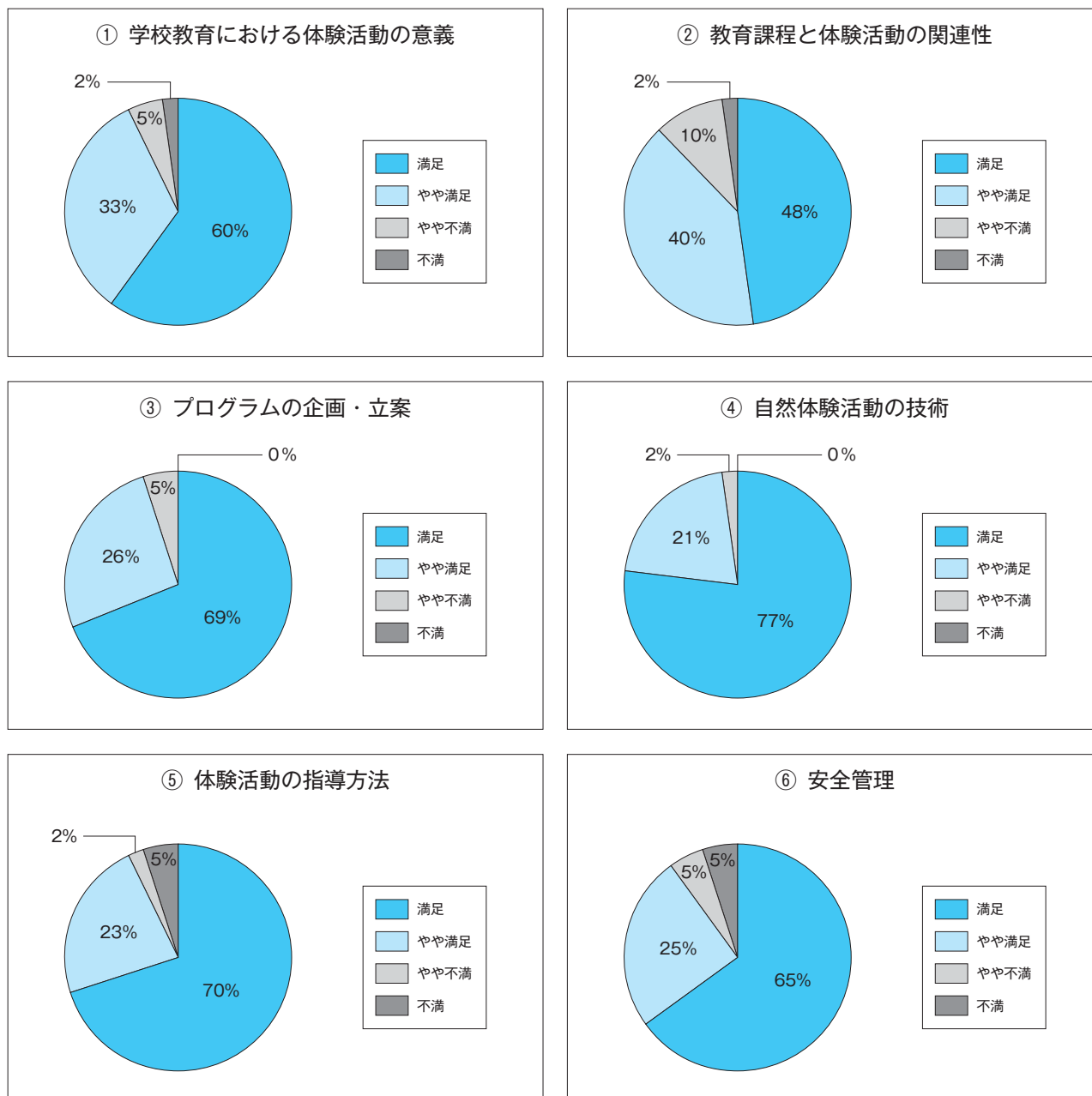
★登山中の安全管理：登山現地研修を実施し、緊急事態を想定しての対処法を行った。

【想定1】自然体験活動を行う際に起こりうる様々な事故を予測するための危険予知トレーニング。

【想定2】雨天時の山に実際に登ってみて、そこに潜む危険ポイント・起こりうる事故について意見交換。

4 結 果

アンケート調査の結果は次のとおりである。



【参加の声】（アンケート記述）

- 楽しい雰囲気であるとともに、内容も大変勉強になるものでした。
- いろんな職業の方々、年齢の方々の考えや意見はとても参考になった。
- 「盛りだくさん」が一言でまとめた感想です。素晴らしいメンバーと子どもの気持ちになって体験活動・生活体験ができました。
- グループ活動ではいろいろな意見を出し合えて、とても有意義だった。
- もう少し掘り下げた体験活動や研修であって欲しい。
- プログラム作成の時間がもう少しあったらよかった。
- 日程的に少し余裕がなかった。講義と講義の間の時間にももう少しゆとりが欲しい。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① アンケートの結果を見ると、総じてどの内容も参加者にとっては満足のいくものとなったようである。大学の教授をはじめ、それぞれの講師陣が、参加者のニーズに合った講義をしていただいた結果であると思う。
- ② 異年齢・異職業のメンバーでグループを編成したのはよかった。それぞれのグループで活発な意見交換が行われ、更に充実した研修となった。また、交流も盛んに行われ、研修の内容以外にも、参加者にとってはお土産ができたようである。
- ③ 本施設職員で分担して講義を行ったことにより、職員自身が自然体験活動に関わる事前研修を行い、質を高めるとともに、それをプログラムの中に生かすことができた。
- ④ 地域の特色を生かしたプログラムを実施したことにより、身近にある自然の大切さと子どもたちに自然体験活動の必要性を理解できた。
- ⑤ 登山研修では、思わぬ天候で心配をしたが、天候が悪い場合の想定ができており、しっかりと研修目的を達成することができた。



野外調理後の団らん

(2) 課 題

- ① 参加者から多かった要望は、日程にもう少し余裕を持たせて欲しいということであった。限られた時間に、受けなければならない講義のコマ数は決まっているので、厳しい面もあるが、始まりの時間を早くしたり、終わりの時間を少し遅らせるなどして、日程の窮屈さを改善する必要があると思う。
- ② 企画指導専門職として更なる質の向上を努めるためにも、自然体験活動や安全指導等の研修会に参加したり情報を収集したりして自身の研修を深めるよう心がけなければならない。
- ③ 野外での研修を工夫して充実させ、より一層阿蘇の自然環境を生かした有意義な講習会にする必要がある。



アイスブレイキングで良好な人間関係づくり



班で作成した自然体験活動プログラムの発表